

農作物技術情報 第8号 野菜

発行日 令和6年10月31日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 共通 栽培後地では、来年の安定生産に向けた作業（残さの処分、資材消毒、土づくり）を行いましょ。
- ◆ 施設野菜 冬期は省エネ対策技術を積極的に実施しましょ。
- ◆ 寒じめほうれんそう 適切なハウスの開閉により株の充実を図り、適期に出荷しましょ。
- ◆ 促成アスパラガス 低温遭遇時間を考慮して適期に掘り取り、収量を確保しましょ。

1 生育概況

- (1) 果菜類の収穫は、露地作型では気温低下により例年よりやや早めに終了しました。施設作型は終盤となり、出荷量は少なくなっています。
- (2) 雨よけほうれんそうの生育は概ね良好です。病害虫は、シロオビノメイガ、ホウレンソウケナガコナダニの被害が見られます。寒じめほうれんそうの播種は概ね終了しました。
- (3) ねぎは順次出荷されています。病害虫は、黒斑病、葉枯病（黄色斑紋病斑）、さび病の発生や、軟腐病等の腐敗症状が見られます。

2 技術対策

(1) 栽培後地の整理と来年に向けた病害虫対策

栽培終了後の作物残さ、越年して使用する資材は、翌年の病害虫の発生源になります。栽培終了後の作物残さは年内に圃場外に埋却処分し、越年して使用する資材は、資材消毒を行います。

ア きゅうりでは、褐斑病が毎年多発する圃場は、支柱や灌水チューブなどの資材に付着した分生子が翌年の発生源になります。残さの後片づけと資材消毒を行い、翌年の発生源を排除します。

イ ピーマンでは、根の残さで土壤伝染性ウイルスの PMMoV が越年します。土壤中のウイルス密度を高め、抵抗性打破の危険性が高まるので圃場への残さすき込みは絶対に避けてください。

ウ なすでは、半身萎凋病の罹病葉に形成された菌核が次年度の発生源となりますので、発生圃場では葉を確実に圃場から持ち出し処分してください。

(2) 来年に向けた土づくりと施肥管理

野菜栽培では、長年、同じ作物を作付けする事例が多いため、基盤となる土づくりが重要です（図1）。

- ア 有機物の施用による生物多様性の確保
- イ 耕盤破碎、深耕等による物理性の改善
- ウ 土壤診断等による化学性の維持改善

なお、県内の野菜畑では、可給態リン酸や交換性カリウムなどが土壤改良目標値を満たし

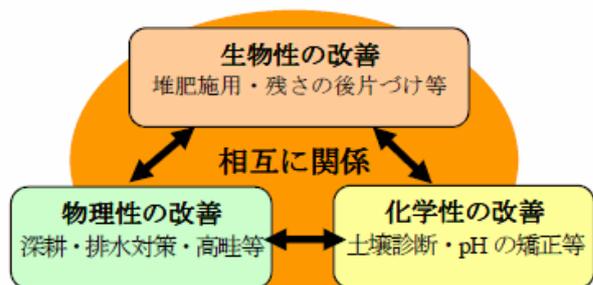


図1 土づくりで重要な三つの性質

た圃場が多く、無施用でも良い水準まで蓄積している事例もあります。また、カリウム過剰はカルシウムの吸収を阻害し、尻腐果発生の一因にもなります。

ア 土壤診断を受診し、適正施肥に努めてください。

イ 土壤改良目標値を満たしている圃場では、「土壤から持ち出された肥料成分を施肥で補給する」補給型施肥基準を適用し土壤養分の蓄積を防ぎます。

ウ 土壤養分が過剰な場合には、減肥基準に基づいた適正な施肥管理に努めてください（図2）。

なお、各品目の補給型施肥基準や減肥基準の詳細については、各地域の農業改良普及センターにお問い合わせください。

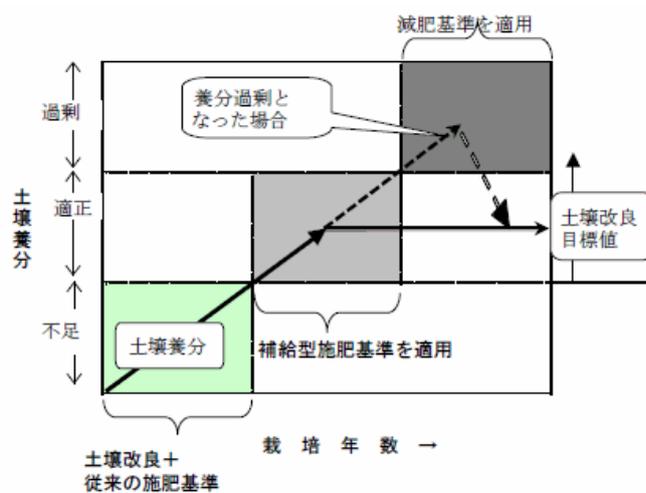


図2 土壤養分に応じた施肥管理基準の適用

(3) 施設野菜

燃油費や資材費などを含めた冬期における施設野菜の生産コストの増加は、農家経営に大きく影響します。最小限の燃油で高い加温効果が得られるよう、省エネルギー対策を積極的に実施します。具体的には、

ア 暖房装置の点検・整備、清掃による暖房効率の低下防止

イ 温室の被覆資材の隙間からの放熱防止

ウ 内張資材などの導入による保温性の向上や温室内の温度ムラの解消

エ 作物・品種の特性をふまえた生育ステージ毎の適正な温度管理の実施などが挙げられます。

(4) 寒じめほうれんそう

- ・ハウスの開閉による適切な温度管理を行い、出荷できる葉長まで生育させます。
- ・ほぼ収穫できる葉長になった時点で、ハウスの入口やサイドビニールを開け、1週間程度5℃以下の低温に連続して遭遇させる「寒じめ」を行い、糖度の上昇を図ります。本県では、葉柄のBrix値8%以上を出荷基準としており、この糖度が得られる12月以降に出荷します。

(5) 促成アスパラガス

- ・地上部の刈り取りは茎葉が十分に黄化してから行います。
- ・十分に低温遭遇した株を利用することで、収量が増加する（図3）ので、5℃以下の積算遭遇時間90時間以上を目安として、掘り取り時期を決定します（表1，2）。
- ・伏せ込み準備は、ハウス内に温床を設置（図4）し、保温対策を万全にします。
- ・伏せ込み後1週間～10日程度は無加温とし、徐々に地温を16～18℃まで上げるようにします。
- ・萌芽開始後は、地温15～16℃、トンネル内気温日中25℃以下、夜間10℃以上を目標にします。

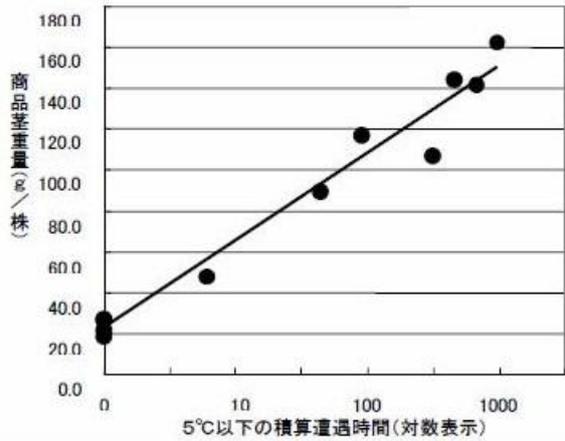


図3 掘り取り前根株の低温遭遇時間と商品茎重量との関係
(商品茎：5g以上の若茎)

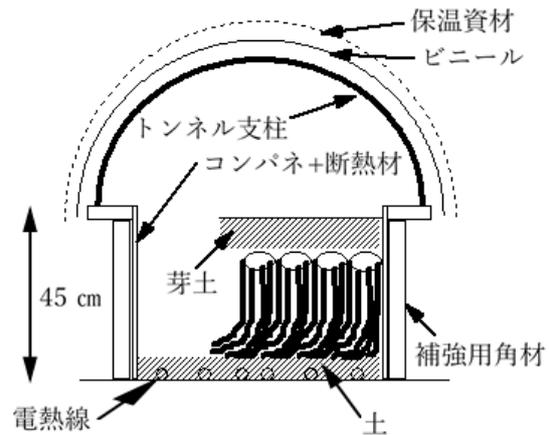


図4 促成アスパラガス温床の設置例

表1 過去5年間の5°C以下の積算遭遇時間が90時間に到達する日(2019~2023年)

年	二戸	奥中山	盛岡	北上
2019	11月7日	11月2日	11月13日	11月20日
2020	11月4日	10月30日	11月11日	11月12日
2021	10月30日	10月25日	11月17日	11月24日
2022	10月28日	10月24日	11月7日	11月15日
2023	11月12日	10月26日	11月16日	11月23日
平均	11月3日	10月27日	11月12日	11月18日

表2 令和6年度の5°C以下の積算遭遇時間(2024年10月24日まで)

二戸	奥中山	盛岡	北上
22時間	46時間	13時間	8時間

次号は11月28日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日~11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**ひと休み 急がば回れ 農作業
ゆとり忘れず 安全管理**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。